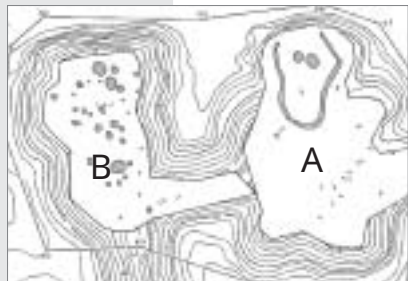




▶ 環壕

◀ 遺跡の全景（現在は埋め戻され、直接見ることはできません）



▶ 環壕断面

◀ 遺跡の地図（環壕のあるA地区、住居跡のあるB地区からなる）

昭和55(1980)年国家石油備蓄基地建設に係る埋蔵文化財分布調査により、静川16遺跡として発見されました。昭和57(1982)年に記録保存のために発掘調査をしたところ、東西に双頭状に分かれた台地から多くの遺構、遺物が発見されました。

A地区からは上幅2~3m、下幅0.3~0.5m、深さ1.0~1.8mで全長139mにおよぶV字状をした環壕と直径8mほどの炉を持たない建造物跡2棟、B地区からは直径3~5mで楕円形をした竪穴住居跡33軒、墳墓、落とし穴、土器片囲炉、焼土跡など多数の遺構が発見されました。また、両地区からは縄文時代早期から続縄文時代までの土器、石器や装身具類18万点が出土しました。

史跡 2

市指定史跡 勇弘会所の跡

苫小牧発祥の原点を訪ねて

勇弘会所の跡は勇弘の市街地に位置し、勇弘市街地の道道苫小牧環状線北側の住宅街に囲まれた場所にひっそりとあります。この場所は勇弘の地に会所という商業上の取引所があったことを現す貴重な史跡です。



勇弘会所の跡全景

現在は石碑があるので、当時の繁栄や建物などの面影はない

指定年月日 昭和31年3月10日
所在地 字勇弘50番地の4、12
所有者 苫小牧市
管理者 苫小牧市教育委員会

史跡 1 国指定史跡 静川遺跡

縄文人の居住地を訪ねて

静川遺跡は市街地から東に18kmの苫小牧東部開発地域内の厚真台地に位置しています。苫小牧から道道上厚真苫小牧線を浜厚真方向に進み、安平川を越えると左側に案内板および入口が見えます。案内に従って約2km進むと遺跡に到着します。静川遺跡は今から約4千年前

の縄文時代の遺跡です。特にこの遺跡は環壕と呼ばれるV字型の壕と、その壕に囲まれた大きな建造物の跡、その近くに多くの竪穴式住居跡が発見されたことにより、縄文時代の大土木工事を裏付けるとともに、縄文文

指定年月日 昭和62年1月8日
所在地 字静川93番地7~11
所有者 株式会社 苫東
管理者 株式会社 苫東



静川遺跡正面(案内板があります)



静川遺跡入口



静川遺跡上部
遺跡北側から登ることができる

化を理解するためには欠くことのできない極めて学術的に価値の高い遺跡として史跡に指定されました。特にA地区の環壕は非常に珍しく、聖域説や砦説があります。が、今のところ「マツリ」の場

であったというのが最も有力となつています。静川遺跡は集落と環壕が一体となり、規模、形状、時代から見ると日本では他に例を見ない遺跡といえます。現在は環壕、住居跡は遺跡保存のため、埋め戻されて直接見ることはできませんが、かつて縄文人たちが暮らしていた場所には遺跡の北側から登ることができます。静川遺跡の上に立ち、縄文人がこの地で暮らし、何に祈りを奉げていたかなど想像し、はるか4千年前の苫小牧に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



特集 史跡を訪ねて

~ 苫小牧市内の文化財を紹介します ~

Special Edition

詳細 文化振興課 ☎32-6752 <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/> で文化財 検索

苫小牧市内には現在11の指定文化財があります。文化財は苫小牧市だけではなく日本という国の歴史を伝える貴重な文化遺産です。今回の特集では苫小牧の歴史を知る上で重要な史跡を訪ね、その歴史上の背景と概要について紹介します。

史跡とは国や地域の歴史を知る上で重要な場所のことです



縄文式土器(博物館展示)



勇弘会所の外観を模した勇武津資料館

- 文化財とは？ 我が国の長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産のことです。また、文化財保護法において保護の対象とするものを文化財といいます。
- 指定文化財とは？ 文化財の中で特に重要で、国や道および市町村が指定・選定を行って保護の対象としているものを指定文化財といいます。

苫小牧市内の指定文化財一覧

| 指定区分 | 種類 | 名称 | 所在地 | 指定日 |
|------|----------|--------------------------|--------------|-------------|
| 国 | 史跡 | 静川遺跡 | 字静川93番の7~11 | 昭和62年1月8日 |
| | 登録有形文化財 | 北海道大学苫小牧研究林森林記念館(旧標本貯蔵室) | 字高丘 | 平成12年4月28日 |
| 道 | 史跡 | 開拓使三角測量勇弘基点 | 字勇弘132番地の49 | 昭和42年3月17日 |
| | 天然記念物 | 樽前山熔岩円頂丘 | 字樽前国有林 | 昭和42年3月17日 |
| | 有形文化財 | アイヌ丸木舟及び推進具 | 末広町3丁目9番7号 | 昭和42年6月22日 |
| 市 | 史跡 | 勇弘会所の跡 | 字勇弘50番地の4、12 | 昭和31年3月10日 |
| | 史跡 | 蝦夷地開拓移住隊士の墓 | 字勇弘132番地の38 | 昭和31年3月10日 |
| | 民俗文化財 | 勇弘恵比寿神社奉納品21点 | 字勇弘138番地の1 | 昭和36年10月4日 |
| | 有形文化財 | 林重右衛門墓碑 | 字錦岡238番地の1 | 昭和54年7月4日 |
| | 有形・民俗文化財 | 錦岡樽前山神社円空樽前権現像及び奉納品7点 | 宮前町3丁目6番20号 | 昭和54年12月28日 |
| | 民俗文化財 | 勇武津不動及び奉納品7点 | 字勇弘46番地の2 | 昭和59年4月6日 |

指定文化財以外には、史跡5、天然記念物2、民俗文化財7、有形文化財1の計15の文化財が市内にあります